

“江戸の風情が残るまち” 美濃加茂市太田宿を巡ろう

中山道六十九次の51番目の宿場にあたる太田宿は、中山道の三大難所の一つに数えられた「太田の渡し」があり、飛騨街道と郡上街道の分岐点でもあったことから、大いに栄えたと言われています。現在も古い町並や2ヶ所の枡形（防衛上の目的で設けた鉤型に折れ曲がった道路）などが残り、宿場情緒を楽しみながら散策できるまちです。

アクセス：《電 車》 JR高山線「美濃太田駅」→徒歩：20分

《自動車》 東海環状自動車道「美濃加茂インター」→国道41号線（5分）

旧太田宿本陣門

1861年（文久元年）、仁孝天皇の皇女和宮が徳川14代將軍家茂に嫁ぐ際の下向のために建てられたと伝えられています。当時の屋敷は失われていますが、街道に面した表門が往時の面影を現在に残しています。

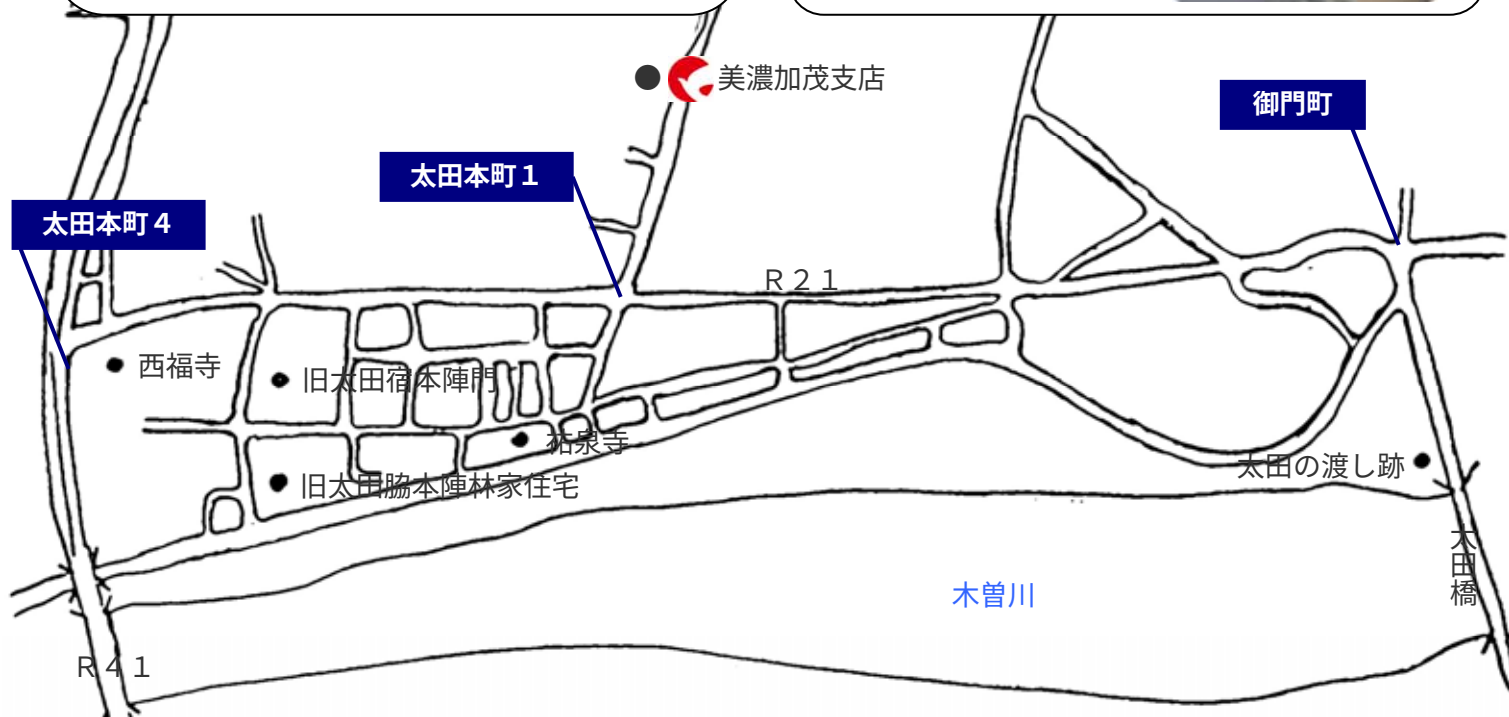
（市指定有形文化財）



旧太田脇本陣林家住宅

1769年（明和6年）に建てられた建物で格子戸と連子窓、屋根の両端に設けられた「うだつ（日本家屋の屋根に取り付けられる装飾）」など、江戸時代そのままの姿を留めています。1882年（明治15年）、板垣退助が岐阜で暴漢に襲われ遭難する前日に宿泊したことで有名です。

（国重要文化財）



祐泉寺

500年の歴史を持つ臨済宗の古刹。槍ヶ岳を開山した播隆（ばんりゅう）上人や日本ラインの命名者である志賀重昂（しげたか）の墓碑がある他、松尾芭蕉句碑、坪内逍遙歌碑、北原白秋歌碑など、さまざまな碑が建ち並んでいます。



太田の渡し跡

「木曽の架け橋 太田の渡し 碓氷（うすい）峠がなくばよい」と俗謡にも唄われた木曽川の渡舟場跡。史跡碑が建ち、石畳の一部が残っています。平成6年に河床から大規模な珪化木群が発見され、一体は化石林公園として整備されています。



地域の元気を応援します
とうしん地域活力研究所

発行：